

CRED レター

【No.2】

Center for Research and Educational Development (CRED) ※Credibility of CRED「クレッド」とご記憶ください

◆ e-kasei の可能性 — 少人数授業における活用体験から —

学修・教育開発センター 副所長 平山 祐一郎



私の授業観

東京家政大学に赴任してから17年目になる。しかし、授業のある日の朝は、未だに緊張感がとれない。少し浮き足立ちながら、大学に向かう。そんなとき、いつも自分に言い聞かせていることある。それは、「ゆっくりやれよ」「丁寧にやれよ」「巧くやろうと思うなよ」ということである。そして、いざ授業が始まる時には、「授業はライブだ」と腹を括る（開き直す）。すると、講義をしている自分も楽しくなり、そこそこ学生諸君も授業を聴いてくれる。

「授業はライブだ」ということは最近、殊更重要であるように感じつつある。多くの学生を、定時に、1つの教室に、わざわざ（交通費もかけさせて）集めるのであるから、大学に来た甲斐を、学生諸君に感じてもらいたいからである。

「来た甲斐」の構成要素の1つが「臨場感」である。それを出すためには、雑談にならないよう気をつけながら、時事の話題を入れて、授業内容を現実と関連づける。板書を多く行い、映像も見せ、説明を繰り返し、学生にはマイクを向け発言させる。こうしたことで、記憶と印象に残る授業を作る。このような授業観を持っている私には、e-kaseiはやや遠く感じる存在であった。

e-kaseiとの出会い

本年4月の某日、あるプリントが目にとまった。e-kaseiの講習会のお知らせであった。ちょうど私の授業がない時間に開催されていた。難しそうではあるが、理解できそうなところだけでも身につけておこう、と出席することに決めた。

いざ会場に向かい、レクチャーを受け始めると、たちまち「これは使ってみたい」という気持ちが湧いてきた。講師の三浦謙一氏のユーモラスで真剣な解説、アシスタントの仲條由希氏のクールで的確なアドバイスが背中を押してくれた。

児童学科の「ゼミナール」とは

児童学科では幼稚園教諭と保育士の養成をしている。したがって、免許や資格のための授業ばかりが行われているように他からは見えるだろう。しかし、名称を見て欲しい。「児童学」科である。当然、児童学を教えている。そのために、1年次では「総合演習」、2年次では「児童学研究法」、3年次では「ゼミナール」、4年次では「卒業研究」及び「児童学総論」がある。

「ゼミナール」とは少人数に対して行われる演習で、1・2年次で学んだことをもとに、4年次の「卒業研究」につなげる重要な科目である。平山ゼミでは、学生に問題意識をしっかりと持たせるために、議論力（傾聴力・発言力・批判力・構想力等）の育成に力を入れている。

「ゼミナール」で使おう！

最近の学生は相手を思いやる気持ちが強い。そのため、はっきりと意見を言わないことが多い。しかも、児童学専攻・育児支援専攻はそれぞれ3クラスあり、編入生もいるので、初回のゼミナールの際は、参加者はほぼ初対面である。水曜日1限ということもあり、新鮮な緊張感に包まれる。それを崩すために、多くの新聞記事を配付し、意見を述べあうところから始めた。

回が進むごとに、次第に緊張は解け、徐々に活気づく。大型連休があけるころには、しっかりとした議論が展開されるようになった。だが、問題が1つ生じた。それは、議論の結果が残らないことである。そこで、ふと「e-kaseiを使ってみよう」と閃いたのである。

ゼミナールでの試行

e-kaseiに各回の授業内容や議論の成果（結果）をまとめることにした。そうすれば、学生が過去の議論を復習することができる。しかし、それを筆者がやり続けては、議論力の育成につながらないと感じた。そこで、「e-kasei推進室」で相談をしたところ、いくつかのご提案をいただいた。そして、フォーラム機能を利用することを選んだ。

たとえば、私が「今日の議論を簡潔にまとめてください」と投稿すると、学生が返信機能で「まとめ」を投稿してくるのである。メンバーは8名なので、8通りのまとめを目にすることができる。まとめ方やまとめられた内容の多様性は、学生の多面的な思考に役立つはずである。

また、「今日の議論で出た意見について、さらにコメントしてください」と私が投稿すれば、ネット慣れしている今日の学生は、直ちに反応する。書き込まれた他者の意見を読むことで、自己の考えや価値観が鍛えられる。このプロセスが記録できることは非常に意義あることである。

教室内でのリアルな議論においては静かなる学生も、

e-kasei上の議論では有力な「発言者（発信者）」となることがある。私も積極的に投稿・返信をする。受講者全員は全てを見ることができるので、メールのやりとりとはひと味違った公共性を、そこに感じることができる。

今後はやりとりが過熱しないように留意しなければならない。しかし、e-kasei上の「ゼミナール」はリアルな「ゼミナール」と並走なので、通常のネットで散見される問題は、ある程度回避することができるだろう。

ウェブ上での授業アンケートの可能性

本年度はCREDにおいて「授業アンケートの見直し」作業が行われているため、従来の授業アンケートは休止中である。それを補うため、井上俊哉先生（CRED所長）が新関隆先生（e-kasei推進室室長・CRED参事）に依頼され、e-kasei推進室の開発により、従来の授業アンケートがe-kasei上で行えるようになった。今年度になってe-kaseiを始めたばかりの私でも、何とかこのシステムが使えたので、既にe-kaseiをお使いの先生方ならば、実施は容易なはずである。

このシステムには大きな可能性を感じた。アンケート実施日

に、すぐに評価結果がグラフで示され、自由記述がリストされるからである。この即時フィードバック機能により、直ちに授業改善案を考えることができる。また、教員にとっても、回答者にとっても簡単なアンケートシステムなので、授業期間中に複数回実施できる。改善の積み重ねに「もってこい」といえよう。

学生の反応

ゼミナールに対する授業アンケートの結果、e-kaseiの利用は、学生諸君に好評であることがわかった。議論の記録が残り、復習できること、他者の意見を知り、自分の考え方が広がり、深まること、授業後も議論の続きができること、が良かったようである。一方、せっかくみんなで集まっているのだから、顔を見ながらの議論も大切にしたい、という意見もあった。

おわりに

ゼミナールは通年科目である。まだ、3分の1しか終わっていない。これが今後どのように展開するか、そして来年1月にどう終了するか、全く見通せない。けれども、久しぶりにワクワクする授業体験をe-kaseiは与えてくれた。e-kaseiの関係者に、心より感謝したい。（以上）

お知らせ

授業アンケートの見直し

本学では、授業改善のための資料の提供を意図して、平成19年度後期以降、ほぼ全科目の授業アンケートを行ってきました。しかし、授業アンケートについて、これまでに多くの方からご意見やご批判をいただきました。たとえば、

- ◎教員が「評価」される一方で、学生自身の取り組みを問う質問項目が少ない。
- ◎集計結果が教員に戻るのが授業終了から2か月近く後であり、授業に反映させられない。
- ◎全体平均との比較（レーダーチャート）が教員にフィードバックされるが、この情報は授業改善に役立たない。

学習評価の分野では、学習過程の途中で学習をうまく遂行させるために実施する「形成的評価」と一定期間をもって実施された指導・学習の終了後にその成果を把握するために実施する「総括的評価」を区別することがあります。そして、評価の目的によって適切な評価法が異なることを説きます。これまでの授業アンケートは、当該年度の授業を総括し次年度に活かすという意味で（総括的評価として）機能するかもしれませんが、現在履修中の学生のために授業を改善するには（形成的評価として）役立ちません。

学修・教育開発センターでは、形成的評価と総括的評価の区別を意識し、従来型の授業アンケートを総括的評価のた

めのものとして明確に位置付けたいうえで、質問項目、実施方式、結果のフィードバック法の全面的な見直しを始めています。検討の経過を学修・教育開発委員を通じて学科・科にお伝えするとともに、ご意見やご要望も歓迎します。平成27年度に再開予定の新しい授業アンケートのほかに、形成的評価のために使える情報収集法についても研究を進めています。

e-kaseiを利用した授業アンケート

授業アンケートの大幅な見直しのため、今年度は全学的なアンケートを行いません。しかし、授業アンケートを使いたいという方もいらっしゃるかもしれません。そこで、e-kasei推進室のご協力を仰ぎ、e-kaseiから利用できる授業アンケートの仕組みを用意しました（利用にはe-kaseiのコース登録が必要です）。このアンケートは、昨年度までの授業アンケートと同じ10項目と自由記述欄からなり、学生にはスマホからも回答してもらうことができます。利用マニュアルは、学修・教育開発センターのホームページ <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/tabid/1398/index.php> に載せてあります。

即時に集計された学生の回答結果はe-kasei上で閲覧できます。集計結果を学生に示すのも容易ですし、Excelファイルの形でダウンロードすることもできます。質問項目を工夫すれば、形成的な利用も可能だと考えています。ぜひご活用いただき、いろいろなご意見をいただけますと幸いです。